

セミナー「高齢者～NPO が支える」記録

主催：兵庫県、都市再生機構、兵庫県住宅供給公社、神戸まちづくり研究所、明舞まちづくりサポーター会議

日時・会場：2004年11月12日(金) 19:00～20:40 明舞まちづくり広場

参加者：22名(スタッフ5名含む)

1. 開会挨拶(依藤庸正：神戸県民局)

先週の金曜日に建築家の野崎瑠美さんにお越しいただき、街開き 40 周年記念の後期公開講座の 1 回目を開催しました。「新しい住まいづくり～コレクティブハウス」をテーマにお話がありました。その中で、ココライフ魚崎のご紹介をいただきました。今日は、ココライフ魚崎を支援のベース基地として活躍されている桑原さん(てみずの会理事長)さんから、地域型仮設住宅から恒久住宅への移行とか、いろいろな取り組みについてお話をいただきます。

2. 『高齢者～NPO が支える』(桑原美千子：NPO 法人てみずの会)

はじめまして、桑原と申します。東灘区でグループハウスとコレクティブハウスのココライフ魚崎と、今年の 2 月にもう 1 ヶ所開設したグループハウスのココライフ御影の 2 ヶ所を運営しています。元々私は、介護や福祉の専門の人間ではありません。30 歳過ぎまで大学の事務職員をしていましたが、結婚して 3 人の子どもが生まれて家に入り、10 年近く専業主婦をしていました。一番下の子どもが小学校に上がると同時に自分自身も社会復帰をしたいと思い介護職に進むことにしました。

手水仮設住宅

最初の 4 年間は、住んでいた西区から東灘区へホームヘルパーとして週 4 回通っていました。そして震災があり、いろいろな仮設住宅が建ちました。中でも阪神間では地域型仮設住宅、ケア付仮設住宅と呼ばれるものがいくつかでき、高齢者やいろいろな障害を持った方たちが住まわれました。私自身は、ある社会福祉法人に所属するホームヘルパーでしたが、その社会福祉法人が神戸市の委託を受け、私を手水仮設住宅へ LSA(生活支援員)として派遣しました。手水仮設住宅は東灘区の本山駅のすぐ近くにありましたが、入居者が最大時で 37～8 人で、ほとんどの方が障害を持たれていました。4 年後には仮設住宅を解消すると決められており、1999 年 6 月に全てを閉じて無事に解消することができました。その 4 年間にいろいろな方たちと出会い、ホームヘルパーでは学べなかったことをたくさん学びました。特にいろいろな障害を持った方たちとの出会いが、もっとたくさん自分たちにできることがあるのではないかと教えてくれました。仮設住宅解消の時に 3 人の高齢者が残され、グループホームをつくらうという話になりました。その他に地域に貢献できるような活動もしてみたいということもあり、野崎さんや NPO 法人の CS 神戸の方たちとも相談して、ココライフ魚崎建設まで至りました。

ココライフ魚崎の建設

神戸市の福祉課の方からは、最後まで残された 3 人は特別養護老人ホームしか行くところが無いのではないかとされていました。その方たちは既に 90 代でしたが、自分たちは助け合って、足りないところを補ってくれる人たちがいれば、まだまだ自分の生活をちゃんとやっていけるという気持ちを持たれていました。ですから、復興住宅か老人ホームかという二つの選択肢だけではなく、今までと同じような生活ができる場としてココライフ魚崎をつくることになったのです。その 3 人の方たちは自分の持たれているお金を出されて、一緒に住む終の住処をつくるという気持ちで、皆でつくりあげたのです。そういう方たちとの出会いが無ければ、今やっている事業はありえなかったと思っています。

1999年12月に念願のグループハウスとコレクティブハウスができてから、今年の12月で丸5年を迎えます。その間に、地域にいろいろな潜在的ニーズがあるということが段々分かってきました。要望があれば一切断らずに何でもやってみようと、赤字になっても倒れそうになっても、とにかく石の上にも3年ということで頑張ってきました。追い風として介護保険制度が導入され、2000年10月からは介護保険事業所としてホームヘルプ事業を始めることもでき、それによって運営も少し楽になりました。収益事業の他に、私たちが本来やりたかったボランティア活動もできるようになりました。今では正職員10名と、パートと登録ヘルパーを20名ぐらい抱えています。介護保険制度の導入と、ココライフ魚崎とココライフ御影の運営が順調に行きはじめて、事業所として雇用関係を結んで給料も払えるようになりました。私たちは最初から自主事業を確立させてから、その余力として地域に何か還元していきたいと思っていました。ですからボランティア活動ももちろん大事ですが、職員の雇用ということは相当重要なことだと考えています。最初は給料の遅配や、私が外で稼いだものをココライフ魚崎に持ってくるといことも時にはありましたが、今は何とか順調に運営できています。

私は本来そういうことのできる人間ではないのです。福祉に関してのビジョンや展望、理念も全く無いまま、目の前のことにどっぷりと浸かってやってきました。震災から今までの間にいろいろなことに関わることができ、忙しい毎日ですが楽しく過ごしています。高齢の方や障害を持った方のいろいろな思いが良く分かるようになり、本当にいい仕事にめぐり合ったと実感しています。

ココライフ魚崎の事業

現在私たちは、ココライフ魚崎を拠点としたホームヘルプ、交流室を利用したデイサービス、地域で要望された方たちへの温かい昼食と夕食の配食をしています。何でもやっているうちに、どんどん要望が来ます。最初は高齢者のためにやっていた配食でも、お母さんが入院している間だけ、家族のために1ヶ月間1日も休むことなく毎日送り届けました。突然夜中に、老々介護をされている方から、お父さんがベッドから転がり落ちてどうすることもできないから来てというSOSもありました。その時は、夜勤の職員が連絡して、周辺に住んでいる職員が駆けつけました。聞かれたことが無いかもしれませんが、コンビニ福祉という言葉があります。まちの24時間営業のホットステーションで、いろいろな応急のものが揃っているというようなコンビニ福祉が、小規模でもまちの中に点々とあれば、高齢の方たちがホームに入らずに最後まで自宅で生活できます。私たちは、そういうものを目指しています。

たとえば、県営住宅にお住まいの82歳の全く身寄りの無い女性の方がおられます。その方は障害があって家の中では歩行器を使われていて、一人では外出することができません。「本来は老人ホームに行かなくてはいけないのじゃないかな」と言われているのですが、まだまだ自宅で大丈夫ですと言いつけて、うちのホームヘルパーが週に4回行っています。入浴介助、買い物、掃除で別々に行くのです。昼食と夕食はうちから持って行きます。週1回のデイサービスにも通ってこられます。この夏には、入院する程ではありませんでしたが、非常に体調が悪くなり一人では不安だということで、2週間ほど泊まられました。こういう密接なつながりがあると、家で安心して暮らせます。何かあった時に連絡していただいたり、こちらからも昼と夕方のお弁当を配達したりして、その方の様子が手に取るよう分かります。言わばまち全体が、一つの大きなエリアが施設のようになり、何かあればすぐに駆けつけることができます。弟さんも障害があって車椅子生活をされていたのですが、去年の5月の夜の8時頃に弟が大変なので何とかお願いしますとSOSの電話がかかってきました。今すぐ行くので救急車を呼んでくださいと言って飛んでいきました。救急車で運んでいただいたのですが、その日のうちに弟さんは亡くなられました。ご親族もおられなかったので、お付き合いされている方たちと一緒に葬式も出しました。その方からは、弟さんのこともあるので、自分も在宅のままでもみずの会から葬式を出してほしいと頼まれています。地域の方たちとお付き合いも絶たれることが無く、老人会や自治会の人たちの助けも借りながら、生活の場を変えることなく最後まで自宅で過ごすということを私たちは支えたいと思っています。

もう一人は 84 歳の方で、手水仮設から県営住宅に移られて一人で住んでおられました。私がケアプランを立てたり、うちのホームヘルパーが行ったりしていたのですが、去年ヘルパーからその方の体調が悪いのですぐ来てほしいとの連絡があったので行きました。かなり弱っておられたので、すぐに救急車を呼んで入院されることになりました。妹さんがおられたので電話すると、妹さんも脳梗塞で入院していて何もできないので、そちらで何とかお願いしますと言われました。入院中は私と職員が毎日通って、洗濯物を受けたり、食事介助をしたり、重篤な状態になった時には私が泊まったりしましたが、結局 2 週間後に病院で看取りました。それでまた妹さんに連絡したのですが、お葬式にも来られる状態ではないのでお願いしますという話でした。仮設の時から長い付き合いで、経済的な状態や財布の中身なども私に打ち明けていましたので、あちこちに連絡して、私のところでお通夜をして、お葬式を出しました。結果的に病院で亡くなりましたが、老人ホームに入られることも無く、県営住宅でしたが自分の自宅で好きなように暮らされていました。そういうことを支えるのが、これからの福祉の現場で皆が目指さないといけないことではないかと思っています。

ココライフ魚崎で看取るということ

ココライフ魚崎には、グループハウスとしての部屋が 1 階に 4 室あります。コレクティブハウスである 2 階には 1K の部屋が 4 室あり、3 階と 4 階は 2LDK で、それぞれの生活スタイルに合わせて住んでおられます。5 年の間に、グループホームの方 3 名と 2 階にお住まいの 3 人が亡くなられ、コレクティブハウスの方も 24 時間ケアに入ったりされています。入居時に、最後はどこで迎えますかということ、本人と家族の方とお互いに話し合いますが、できるだけ病院に行きたくないと言われることがほとんどです。癌の方もおられましたし、高齢で亡くなられた方もありました。一人だけで自宅で住まわれていた身寄りの無い方が弱ってきたので、その方の後見人のような牧師さんからお願いしたいと頼まれて、3 ヶ月程滞在していただいている間に亡くなられたということもありました。ココライフ魚崎の中で既に 5 人の方を、皆で手を取ってお別れしたことがあります。現在も二人が重篤な状態で、往診と訪問看護、それから私たちのケアによって生活されています。

ココライフ魚崎をつくる原動力となった男性がおられたのですが、94 歳で肺炎になり病院で亡くなられました。その時に病院というところは、毎日の生活を支えてくれるところではないと感じたのです。病気がある一部分の治療をするだけで、後はほとんど関わりを持ってくれませんでしたので、その方は寂しい思いをしながら、早朝 3 時頃に誰にも看取られずに息を引きとってしまったのです。看護婦さんが気がついた時には既に亡くなられていました。そういう悔いがすごくありますので、最後は誰かが傍に付いて見送りたいという気持ちを強くしました。今は、ココライフ魚崎でも御影でも、何かあればすぐに来てくれるお医者さんと、私たちの連携によって生活を支えています。亡くられる時にはお互いに手を取って、皆が耳で「出会って良かったですか。私たちはお会いしてとても感謝しています。」と口々に言ってお別れしたこともありました。そういう最期を味わって、豊かに飛び立っていただけるように皆でやっているところです。

ココライフ魚崎の職員

私は 52~3 名の在宅の方のケアプランを立てているのですが、今年の夏の長さや暑さのために体調が変化したり具合が悪くなる方が多く、訳が分からないまま夏を過ごした感じがします。私たちは、すぐに出かけて行って迅速に対応することを目指していますので、とにかく呼ばれることが多くて皆バタバタしました。ココライフ魚崎も御影も 24 時間ケアで、夜 8 時から翌朝 7 時までには一人だけなのです。遅番や早番の人もいますが、夜勤者は一人です。この前、雇った若い人たちに近くに住んでほしいと言いますと、一番近くは走って 30 秒ぐらいのところに住んでいる人もいます。私が一番遠くて西区に住んでいますが、他の人はほとんど東灘区に住んでいて非常に心強いです。職員の主力は 40 代の女性で、いろいろな事情でお子さんを引き取って一人で子育てしている方もいます。そういう人たちのためにも

転ぶわけにはいかないと思っています。在宅ケアの方でも亡くなられたり入院されたりして、ケアサービスを中断することがあります。こういう高齢者介護の事業は顧客が入れ替わりますので、運営は非常に不安定なこともあります。運営を安定させるために営業にも頑張っています。

ココライフ魚崎の他の事業

< 宅老所 >

託児所のようなものです。介護保険のデイサービスは送迎付きのデイサービスですが、家族が仕事に行くと送迎に立ち会えないので利用できない方がいます。今お受けしている方で、お母さんが80代で息子さんが50代の二人暮らしの方がいます。お母さんが病院から退院されて、寝たきりになっても自宅にいたいというので、息子さんから相談があったのです。ヘルパーを派遣しての日中の見守りもいいのですが、1日中というわけにはいきません。それよりも、息子さんが出勤前にお母さんを連れてこられて、仕事の帰りに家に連れて帰るといふことにしませんかということで、月曜日から金曜日まで毎日うちに通われています。自宅で朝食を食べて来られる時もあれば、来てから食べることもありますし、夕食はこちらで食べられます。息子さんの帰りが遅い時には、泊られることもあります。そういうところは柔軟に、その方の事情に応じてやっています。今そういう方が二人おられます。

< ショート・ステイ >

介護保険制度でもショート・ステイがありますが、緊急の時にお年寄りを預かってほしいと言われても、枠が一杯でなかなか利用できないことがあります。2ヶ月前に予約しておかないと駄目ということもありますが、うちの場合は無理して空けることもあります。脳梗塞の奥さんをご主人が家で介護されていて、ご主人が急に倒れて意識不明になってしまったということがありました。息子さんから、父親が救急で運ばれて母親をどこにも置いておけないので、落ち着くまで預かってもらえないかと電話があり、1時間後には迎えに行くと半月ぐらい泊まりました。夏の疲労を回復するために泊まりにくるとか、そういういろいろなショート・ステイです。料金設定は、素泊まりが3,500円で、食事代は3食おやつ付で1,200円ですが、事情に応じた対応もしています。

< 障害者支援費事業 >

去年から始まりました障害者に対するホームヘルプサービスで、神戸市の委託を受けてやっています。これは収益事業になっています。今は、5件ぐらい受けています。

< 生きがい対応型デイサービス >

週1回だけですが、介護予防としてやっています。近隣の方が歩いて来られて1日過ごされますが、それが1週間の活性化につながるようなメニューを考えてデイサービスをやっています。先週は、皆で淡路島へバス旅行に行ってきました。時々外に出て行ったり、内では歌を歌ったり、いろいろなレクリエーションをしています。5年前に始めた時からほとんど入れ替わりなく10人前後の方が通ってきています。

< 研 修 >

実習生がココライフに1日に2人ずつぐらい来ますので、そういう実習生の集まりがあったり、ボランティアの集まりがあったりして、一緒に勉強会や研修事業をやっています。これからの老人介護は、身体介護だけではなくて、痴呆介護がかなり大きな割合を占めるのではないかとされていますので、私たちが専門的に学ばなくてはいけないようなアルツハイマー型痴呆や脳血管性痴呆のことについても月に1回ぐらい勉強会をしています。そういう時には外の人たちにも声をかけています。

< 地域交流会 >

2月にお雑煮会、3月に雑祭り、7月の七夕や9月の敬老の日のお祝い、それとクリスマス会の計5回地域との交流会をしています。地域にお知らせのピラを撒いて来ていただいています。これは高齢者だけではなくて、赤ちゃん連れのお母さんや小学生も参加してくれています。もう少し交流室が広げればもっと活発にできるのですが、小規模ですけれどもいろいろなことをやっています。

最後に

最近、福祉や介護業界では小規模多機能ケアを目指そうと言われていますが、私たちはまさに小規模で何とかやりくりしているという感じです。職員はそんなに多くはありませんが、ココライフ魚崎だけでなく、ココライフ御影もできて倍になりますといろいろ大変です。しかし毎日が非常に楽しいのです。職員の中には、精神的な障害がある程度回復して社会復帰された方もいます。高齢の方が多くあまり厳しいことも言われませんし、温かく包み込んでくれますので、そういう方にとっては非常にいい職場だと言って来ています。職員は20代から、一番年上は72歳で、非常にいいケアをしてくれます。60代の方も4~5人いて、一番少ないのが30代です。うちで働けるだけ働いて、働けなくなったら即入居者になってもらって、職員に対しては終身面倒をみたいと思っています。

質疑応答

明舞団地は一人暮らしの高齢者が随分多く、1週間ほど前にも孤独死がありました。自治会では頑張って声をかけていこうという意見が出ていますが、声かけしてもドアを開けてくれない独居老人の方や、高齢でなくても持病を持たれている方などへの対応を、地域でどういうふうにすればいいかということが問題です。

孤独死は、やはり誰かが関わらないと防げないと思います。私がケアプランを立てていた方で、外からの関わりを拒否されて一人で亡くなられた例もあります。でも人には自分の生活を選ぶ権利があります。私たちがいくら言ったところで、何かあってもあなたには責任は無いのだからほっといてくれと言われると、それもその人の自ら望んだ最期だと思ふことにしています。本人が望んでいなければどうしようもないのではないかという気がするのですが、何かあれば連絡してくださいと言い続けるしかないと思います。どんなに強がりを言っておられても、本当はやはり寂しいと思うのです。その方の性格とかでやりにくいということがあるかもしれませんが、門をたたき続けるということが大事だと思います。

65歳以上の一人暮らしの方は、民生委員がある程度把握して友愛訪問をしています。その年にならない方は分かりません。やはり近所同士で気をつけるということがより必要になってくると思います。私も民生委員です。友愛グループの訪問のような活動をもっと深くやっていかなければいけないと感じています。

震災後に、結構若くてもアルコール依存症の方の孤独死もありました。自治会の方は頭を抱えておられて、どのように関わるかというのは難しいです。でも、何とかしなければと思われる方もおられますから、まだまだ希望はあります。

これから痴呆の方に関わる方が出てくると思いますが、痴呆の方を抱えている家族の方は本当に大変だと思います。

独居で痴呆の方が結構多くなってきていて、周りの方は火の元をものすごく気にされます。その火の元さえきちっとしていれば、ある程度は地域の力で生活できるのではないかという気がしています。痴呆があってもできれば徹底的に地域で、その人の大好きな家で暮らしていただきたいと思っていましたが、最近ココライフ御影でお引き受けした方がおられます。この方に関しては、何かあればここに電話してくださいと私の名刺を周りに配りまくって、毎日うちからも職員に行ってもらって生活の見守りもしていました。私が1年間毎日家に行って顔を見ているのに、ご自分が痴呆ではないかと思われているからかお愛想は言われますが、私のことは全く覚えておられません。近くのスーパーにお金を持って行かず買い物をして呼び止められることもしばしばありました。お店に行って、この方はこういう方なので、とりあえず何かあったら私を呼んでくださいと頼んだり、地域のお巡りさんにも連絡しておきました。また、一人でファミリーレストランのモーニングにお金を持たないで突然行って、いざ払う時になってお金が無いというようなこともあって、その時は店の人に電話してもらって誰かが行くということもやっていました。そういうような事例があると、地域の方同士のつながりが強まるように思います。

それで、この地域でこの方を支える輪ができればと思い、本人を徹底的に私たちもサポートするけれども、周りの地域の人に対しても私たちがサポートしてという形でやっていました。しかし、ある時に押し売りみたいな人が来ていて、家に上げてしまっていました。その時は近所の方が見ておられて、電話がかかってきて行ってみたのですが、すぐにお巡りさんにも電話して帰ってもらいました。このままでは人命に関わるかもしれないので、ココライフ御影がオープンした時点ですぐに引き取りました。責任をもって支えるところがあれば、何とかいけるかなという気はしていたのですけれども。

団塊の世代を入れると、明舞団地ではあと数年で60歳以上の方の人口が50%を占めるようになります。

2025年が、団塊の世代が75歳以上になりピークだと言われています。私たち団塊の世代は今まで頑張ってきたし、どんどん消費もして相当社会に貢献したと思うのですが、年をとるとどうだかと言われるとつらいです。ただ、うちの職員は72歳の方がいますし、他にも70代で元気に頑張っている人もいます。できるだけ現役のままいられたらいいですね。痴呆や脳梗塞にかかるかも分かりませんが、70代の人で要介護状態になるのはどれぐらいの割合でしょう。元気で、若い人を助けられる老人であれば、80、90代であっても、負担に思われなくていいでしょう。

私の団地は、建替え事業が始まっています。問題は一時移転で、高齢者が一番のネックになっています。二度の引越は嫌だという話もありますし、新築の部屋は完全な密室になりますし、本当に苦悩しています。

今にして思うと、地域型仮設というのは本当に良かったと思うのです。昔の寮形式で、廊下の両側に部屋があって、共同の炊事場やトイレ、風呂がありました。高齢の方たちは部屋にトイレが無いということを最初は怒っていたのです。ところがトイレに行くには必ず部屋から出ます。そうすると顔が見えるのです。共同の風呂も時間的なことでのトラブルが一杯ありましたが、家の中の風呂で亡くなる高齢者が結構多いですから、それも良かったと思います。それから台所のトラブルが一番多かったのです。ずぼらな人もいれば、潔癖な人もいますから、しょっちゅう喧嘩になっていたのです。その喧嘩の場が一つのコミュニティづくりになっていました。私も最初は怒っていたのですが、終わる時には、これが今からの高齢者の、あるいは障害を持った人たちの住まいとしてはいいかもしれないと思いました。これが基本になってココライフ魚崎では、皆に出てきてもらいたいので部屋にはトイレを付けませんでした。そうすると顔を見ますし、運動にもなるし結構良かったのです。復興住宅で一番問題なのは、扉で閉ざされた密室だということで、地域の人たちの善意だけではうまくいかないかも知れません。

こういうNPO法人が地域にたくさんできないと、大変だという気がします。介護保険制度のケアマネージャーが、てみずの会の中におられますか。それと、収益事業とボランティアとの兼ね合いをお聞かせください。

事業所としてケアマネージャーはいます。1割負担ができない人にはできるところまでいただきます。障害を持った方や介護保険ではできないような病院への通院に付き添って行くとかいうようなことも無料でやっていますので、職員は割合ゆとりを持って抱えています。介護保険のヘルパー派遣で在宅の人たちを持っていますので、外へ出て行っている部分の収益もあります。その分も合わせると、大体1ヶ月に450万円ぐらい入ってきますので、それで職員の給料を払っています。

ココライフ魚崎と御影の建設費はどれぐらいかかっていますか。

魚崎の場合は2階より上はコレクティブハウスで、全部区分所有の分譲です。1階部分はNPOが取得した分と、仮設から来られた方たちがお金を出し合って取得した分があります。敷地は90坪で、4階は1戸だけで、半分は屋上庭園になっています。建設費は全部で1億8千万円だったと思います。御影の方は、改装に3,500万円かかりました。

24時間ケアということですが、抱えるエリアはどれくらいまでを考えておられますか。

大体東灘区周辺ですが、須磨の方からも電話が突然かかってきたこともあります。その時は、須磨や長田近辺の職員に行ってもらいました。ですから、その範囲は職員がどこに住んでいるかにもよります。

ボランティアの方はどんな仕事をするのですか。それと、ボランティアの交通費などの経費はどういうふうにされていますか。

ボランティアの方は、散歩や買い物の付き添い、調理や掃除などの家事関係や、デイサービスのレクリエーションなども担当してもらっています。介護の現場は職員がやります。何かあった時の責任がありますから、ボランティアにはお願いしていません。ボランティアの方には、交通費と昼食を出しています。その他に、引越しのボランティアなどもあります。高齢でなくても、とにかく誰か手がほしいとかいう時は、先方と交渉していくらかいただきます。何もかもボランティアばかりではなくて、お金の余裕のある方からはいただいて、その人の持っている能力の一部分だということで支払っていただくこともあります。

往診があるということですが、どこまでケアワーカーとしてできるかの線引きが難しいと思います。病院とどのような話になっているのかという点と、病院の費用とかをどなたが管理されているのでしょうか。それと、事業所として行政との関わりで大変な点や改善してほしい点があれば教えてください。

ずっとかかっている先生のところに行きたいという方は無理してでもお連れしています。最近は何とどの先生が往診してくださいます。高齢の方は通院して待合室で長時間過ごすことが非常に苦痛ですから往診でお願いしています。また私のところと在宅医療をやっておられる先生と密接に結びついて、いろいろな相談にも乗っていただいています。理事の中にも病院の院長がおられますので、緊急時にはそこに連れて行くということもしています。うちで看取った方で、在宅医療をされている先生が最後を看てくださり、死亡診断書を書いてくださいました。死亡診断書が無ければ、司法解剖に入ったり、警察の方が来られたりということが起こってきますが、お互いにそういう関係はできています。職員が医療行為をできるかどうかに関わってきますが、簡単な処置は家族であれば普通やりますので、私たちを入居の高齢者の家族として位置づけています。一緒にずっと生活していますので、そのような気持ちでやっています。

行政との関わりは、最初にココライフ魚崎を建設する時には、高齢者の住宅再建のための補助金や復興基金とかいただきましたが、建設して以降は補助金を一切いただいていません。介護保険の報酬は請求していますが、できるだけ自分たちでやりたいという気持ちがありますので、補助金はあてにしないようにしたいと思ってやってきました。また、待機者が増えてきており、もう1ヶ所必要だということでココライフ御影をオープンした時も、そんなにお金が溜まっていたわけではなかったのです。たまたま御影の産婦人科の病院の80歳になられた先生がリタイアされて、その建物を何とか違う形で活用してほしいという話がありましたので、1階部分と2階部分を借りて全面的に改装しました。その改装費が実は3,500万円かかりましたが、できるだけ補助金もいただかないでということで、20年ぐらいで返すぐらいの目処は立てて銀行から借金をしました。ほとんど全部を自分たちの力だけでやってきましたので、委託事業の他は行政との関わりはあまりありません。

すごい規模で、繰越金が2千万も3千万もあって、営業能力もすごいですね。

繰越金は建物の資産なので現金はあまりありません。こういうものは本当に必要なというのをひしひしと感じていますので、御影もある程度順調にいつか2~3年したら、第3の姉妹園はほしいと思っています。私は一介のヘルパー上がり人間なので、ただ単に目の前で必要なことだけをやってきたという感じです。

コレクティブハウジングという住居形式と、グループハウスという福祉的な住まいとの合築で、福祉的な面からは全部をどちらかにするというのもあったと思います。恒久住宅に移れない方の受け皿ということもあったというのは理解できるのですが、合築されたというのは他に何か意味はあるのですか。

それは野崎さんとのやり取りの中で、そのような建物になりました。私自身はグループホームだけと想っていたのです。ところが、上の4階部分に住んでおられる地主さんから定期借地50年で土地を借りて建てたのですが、地主さんが自分は自立した生活をしたいのでグループホームのようなものは困るとはっきり言われていました。そういうことで、地主さんは70代半ばの方なのですが、仮設で出会った高齢者のための部分を1階につくって、それ以上は自立性の高い高齢者のコレクティブに、ある意味では福祉マンションみたいなもので、1階にケアする人間がいて何かあった時には対応するというようなものにしました。そうすると1階だけでは建物自体が建たないのです。1億8千万円かかりましたが、4階くらい建てないと地代も維持できなかつたわけです。だから2階以上のコレクティブに分譲で入居していただく方、高齢者でこういう介護が付いている良さを分かっていたので入居者探しが非常に大変でした。1Kで1,300万円、2LDKで2,500万円を、ローンを組まずに出してくださる高齢の方というのは滅多におられません。それも、最後の自分の住む家として、信頼関係が無ければ多分来られなかつたのではと思います。入られてからは、本当にこういう住まい方もあるのだと分かっていたと思いますが、騙されるのではと思われるようなことは結構ありました。

1階の交流スペースで、2階以上のコレクティブハウスの健常高齢者が一緒に交流されることのメリットは。

グループハウス入居者とコレクティブハウス入居者は同じ年代の人なのです。上の方は自立性が高いので、いろいろなことを手伝ってくださいます。家事も話し相手もしてくださって、それは一方では誰かの役に立っているというような気持ちも持っていますし、一方で私たちも助かっています。いろいろ交流があって、同じようなレベルの人ばかりではなくて、レベルの違う人たち同士の交流というのも、お互いに意義があると思っています。

お通夜をされたということですが、分譲で住まわれている方からのクレームとかは無かつたのですか。団地内では、お葬式をあげたいという方とそうではないが正反対なのです。

2階の区画に、うちが所有している1Kの部屋が一つあります。そこは独立しているので、そこでお通夜をします。一緒に住んでいる高齢の方には、皆で見送ったと分かっているにもかかわらずかなりショックを受ける方がおられますので、皆と同じ場所ですと影響があるのです。でもやはりお葬式は皆で温かくやってあげたいという気がずっとしています。私は仕事柄よくお葬式やお通夜に行ったりするのですが、葬儀の事業所がやられているのは演出が決まっています、行った人は何か役割を演じるだけです。非常にスマートなのですが、生きておられた時の姿が彷彿とできるような雰囲気を感じる事が少ないのです。だから本当に温かく、その方と共に一緒にいた人たちと見送ることを目指したいと思っています。そういうことは、死ぬということはどういうことかということ、もう一度皆で考え直さなければ難しいという気がします。お葬式を日常と切り離された忌むべきもののように考えると、うまくいかないと思います。

3. 閉会挨拶（依藤庸正：神戸県民局）

今日はNPO法人てみずの会で頑張っておられる桑原さんにお越しいただきました。ホームページで検索してみたのですが、ある方が「NPOてみずの会は、被災高齢者および地域を対象とした福祉活動、障害者・高齢者への生活支援を行っています。理事長の桑原さんは、非常に明るくて元気のある女性です。」と書かれていました。これからも明るく元気で頑張りたいと思います。今日はどうもありがとうございました。